

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 22 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

彼らの額には神の名がついている。(黙示録 22:4)

もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。

(黙示録 22:5)

ここでは、太陽は全く必要ありません。ぬくもりと光は主から来るから。

彼らは永遠に王である。(黙示録 22:5)

御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なのです」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。(黙示録 22:6)

「ふん！」と言いたいでしょう。

「すぐに?」「へえー」「これは 2000 年前に書かれたんだよ。」

ここで使われている“すぐに”という言葉は“TACHEI”

この言葉から“タコメーター”が生まれました。

タコメーターとは、物事の高速回転を示すもの、R.P.M. (毎分回転数)。

「すぐに起こるべき事」とは、なにも「ヨハネ、あなたが生きている間に、すぐにこれらの事が起こるよ。」という意味ではなく、これらの事がブルン! と回転速度を上げて起こり始めたら“レッドライ”だということ。

これらのことが起こり始めたなら (ルカ 21:28) というのは、物事が起こる毎分回転数が急速になることを言っており、言い換えれば、終末の出来事が起こるのを一旦見始めたなら、ブルン! レッドライ

ンなのです。

「長い期間をかけて、その内に主はやって来るだろう。」というのではありません。

これについては、タクシーのイメージがとても気に入っています。

ニューヨークに行ったことのある人なら、道端に立って「タクシー！タクシー！タクシー！」「タクシー… タクシー……」「タクシー、タクシー、タクシー、タクシー……」「タクシー…」そしてやっと1台つかまった時には、経験した人は、私が何を言いたいのかわかるでしょう？ ようやくタクシーがつかまったら、乗り込むなりブン！ 出発です。

車を道端に寄せて、運転手とのんびり話なんかしませんよ。

一旦乗ったらすぐに出発。それが、このイメージです。

一旦“物事”が起こり始めたなら、それは、イスラエル国家再建やエルサレム再統一などで、私たちの人生の中で現在（\*1997年）目撃していることが起こり始めたら、「わたしが戸口まで来ていることを知りなさい。」とイエスは言いました。

皆さん、私たちは、もうタクシーに乗っているんです。

タコメーターがフル回転している。これらのことが、高速回転でものすごいスピードで起こっている。

ここは、そういうイメージなのです。

何世紀もの間、人々は何ひとつしるしを見ることもなく、どの預言も一つとしてさっぱり意味が分かりませんでした。しかし突然、全てのことが、ビックリする形で整い始めて「聖書預言、大好き！」となりました。

私たちは聖書預言が大好きなのに、異なる世代の人たちがそうではなかったのはなぜでしょう。彼らにとっては、かけ離れた概念であり、理解できなかったからです。

不可能だったのです。

でも今の時代は、「わあ！ 全てのことが明確に分かるよ。」

物事がすごい速さで起こっています。

そして、「見よ。わたしはすぐに来る。」（黙示録 22:7）

「これはどういう意味なんだ!? ジョン、これは回転速度のことじゃないぞ！」

主が「すぐに来る」と言われてから 2000 年経ちました。でもちょっと待って。

ペテロは言いました。一日は千年のようであり、千年は一日のようです。（Ⅱペテロ 3:8）

つまり、主が去ってから二日。だから、主にとっては「すぐに来る」なのです。

「見よ。わたしはすぐに来る。」

この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」（黙示録 22:7）

これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見たとき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとした。（黙示録 22:8）

すると、彼は私に言った。

「やめなさい。私はあなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神を拝みなさい。」（黙示録 22:9）

「私を拝むな！」私が関心を持っているのはここです。

19 章でも同じことがありました。わずか数ページ前の話。

私は彼を拝もうとして、その足もとにひれ伏した。すると、彼は私に言った。

「いけません。」(黙示録 19:10)

今度は 2 章あとで、ヨハネはまたひれ伏して、御使いを拝もうとしています。

「ヨハネは一体どうなってるんだ!？」と思うでしょう。

私たちも同じ罪を何度も何度も犯してしまうのは、一体どういうことなのでしょう!?

今までに同じ罪を 2 回繰り返したことがある人はいますか?

この中でヨハネの気持ちが分かる人?

「同じ罪を 2 度やってしまう気持ち、よく分かるよ。」と思う人は?

主は 7 度の 70 倍、赦して下さる方です。

「あなた方に罪を犯した人を七度の七十倍赦しなさい。」(マタイ 18:22)

これは、「よし。490 回まで。」そして「491 回目。さあ、覚悟しろ!」ということではありません。数えるのさえもいけませんよ。

主が「そのように赦しなさい」と教えたのなら、主ご自身は、私たちをどれだけ赦して下さるでしょう。

事実、主は「もはや、彼らの罪を思い出さない。」(ヘブル 8:12) と言われました。

感謝します。

だから、私も恵みの御座に堂々と進み出て、助けを求めることができるのです。

なぜなら、主は、私の今までのどんな罪も覚えていないから。どの罪も。

例えば、グレッグが突然立ち上がって、今私が座っている所に来て、拳を握りしめ、私の顔面を殴ったとします。

私は彼を赦すことはできるでしょう。それはまだ、私にもできる範囲です。

でも、絶対の絶対に忘れない。私はそんな器は持っていません。

ただ神だけが「ジョン、私はあなたを赦すだけでなく、その罪を覚えてもいない」と言えるのです。神だけがその器を持っています。

何を基に? 神の御子の血潮の力を基に。

天の父にとって、イエスの血は非常に尊く、とてつもない力があります。

それは、これまで私が犯してきた全ての罪に関する記憶を洗い流してくれました。

私は自由です。自由なんです。

もし天の父が私の罪を全部記録していたら、私はきっと、そんなに祈らないでしょう。

何回も同じことを繰り返し、何度も同じ間違いを犯して、主は私にウンザリしているに違いない。それはあまりに恥ずかしく、あまりに屈辱的だから。

でも、聖書に書いてあることを信じるなら、天の父は私の罪を覚えていない。

だから私は自由に主と語り、主の御前に出て、主から受け取ることを期待できるのです。

ヨハネも私たちと同じように失敗を繰り返しましたが、ハレルヤ! 天の父は、それらの罪をもう覚えていません。

また、彼は私に言った。(黙示録 22:10) よく聞いて下さい。ここは大切です。

また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。

時が近づいているからである。」(黙示録 22:10)

この書を封じてはならない！

ところが、牧師、聖書学校や神学校の教授、作家やコメンテーター、敬虔な兄弟姉妹たちが言うのは、「黙示録を読んではいけない。複雑すぎるし、色んな解釈があり過ぎて、本当の意味は分からないから。」

「ダメだ。」「読むな。」「封印しろ。」「読んではいけない。」

〈救われて 20 年とか、クリスチャンになって 50 年とかなら？〉

「ダメ。読もうなんて考えてもいけない。」

しかしここには、天からのダイレクトな命令があるのです。

この書の預言のことばを封じてはいけない。(黙示録 22:10)

言っておきますが、黙示録には、特別の祝福が備わっているのですよ。

この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。(黙示録 1:3)

具体的な祝福が付いて来る唯一の書が黙示録で、もしこれを封印したり、ないがしろにするなら、あなたも私も貧しくなります。黙示録は常に開かれていなければなりません。

この書の預言のことばを封じてはいけない。(黙示録 22:10)

人々は、「これは理解し難い書だ」と言いますが、そうではありません。

黙示録は、神のアウトライン（概要）が与えられている唯一の書です。

そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。(黙示録 1:19)

メタ・タルタ。ずっと聞いてきた人なら分かるでしょう。

神のアウトラインに沿っていけば理解するのは簡単。これ、すごく言いたいんだけど…

1 章は“あなたの見た事”。イエスが復活しました。主は甦りで真実。

2 章と 3 章は“教会史”。

4 章と 5 章は“この後に起こる事”。私たち教会はどこにいますか？ 天国。

何の後ですか？ 教会史の後ですよ。

「ここに上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう。」(黙示録 4:1)

ヨハネはたちまち天に上げられましたが、そこには教会がいました。

4 章と 5 章で教会が無事に天に上げられた携挙の後、6 章から 19 章までが患難。

4 章と 5 章は必ず 6 章の前に来ます。

これまでもそう、今もそう、これからもずっとそうです。

20 章は千年王国。千年間の平和と繁栄。

そして 21 章と 22 章は新しい天と新しい地で、私たちはみんな、いつまでも幸せに暮らすのです。

では、続けましょう。

この書の預言のことばを封じてはいけない。(黙示録 22:10)

封じるな。ないがしろにしてはいけない。

次 11 節で主はこう言っています。

「不正を行う者はますます不正を行い、汚れた者はますます汚れを行いなさい。  
正しい者はいよいよ正しいことを行い、聖徒はいよいよ聖なる者とされなさい。」(黙示録  
22:11)

これはどういう意味でしょうか？

「この書を封じてはならない。」「この書を理解した後で、この書を読み、聞いた後で、この預言を学んだ後で、それでもまだ不正を行うことを選ぶのなら、ますます不正を行いなさい。この預言を読んだ後、それでも汚れを行う方を選ぶのなら、ますます汚れを行いなさい。」

つまり、イエス・キリストの啓示についても、聖書預言の成就に対しても何も思わないなら、何もかもあなたを変えることはできません。

選ぶのは、あなたです。

この書以上の論理も、より頼むものも他にはありません。本当に。

それで「イエスが主です。私は主の王国のために、永遠に主と共に生きていきます。」と言うのです。

「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。(黙示録 22:12)

わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」  
(黙示録 22:13)

自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。(黙示録 22:14)

主の戒めを行う者は幸いである。

[KJV 訳 ; Blessed are they that do His commandments.]

「そうか。で、それは何なんだ？」

群衆はイエスのところに来て言いました。

「私たちは、神のわざ (\*the works) を行うために、何をすべきでしょうか。」(ヨハネ 6:28)

イエスは答えて、「あなた方は神のわざ (\*the works) について尋ねているが、わざ (\*the work) とは、この一つのことです。」

「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざ (\* the work) です。」

(ヨハネ 6:29)

主の戒めは、全てこの一つの教えに要約することができます。

ただ信じる。ただ主を信じる。ものすごくシンプルです。

前にも言いましたが、人々はそれを複雑にして、「これをしなければならない。」「あの日を守らねばならない。」「この服を着なければならず、それらを食べてはいけない。」

内容はどうであれ、つまずかせ、律法主義で束縛する。

こういうことは、カルバリーの丘の十字架でイエス・キリストが成就した素晴らしい働き (わざ) から引き離してしまうのです。

主が全ての対価を支払われ、わざが完了し、幕が裂かれました。

あなたが今言うべきことは、実にシンプルです。ほんの数語、9 語。

Lord, Remember Me When You Come Into Your Kingdom.

主よ。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。(ルカ 23:42)

これは、主の隣で十字架にかかっていた罪人が言った言葉。

あの日、十字架にかかっていた盗人が主の姿を見て、

「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」(ルカ 23:42)

主は「分かった。」「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」(ルカ 23:43)

もっと簡単に7語。7語ですよ！

Lord, Have Mercy Upon Me, A Sinner.

「神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。」(ルカ 18:13)

すると主は、そうされました。

もっとシンプルに3語！

水の中に沈みながらペテロは、Lord, Save Me.

「主よ。助けてください。」(マタイ 14:30)

もっとシンプルに1語！

Lord.

もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中から蘇らせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。(ローマ 10:9)

実にシンプルです。

こんな恵みの機会を受け取りたくない人がいますか？

ただ「主よ！」と言うだけで、永遠に生きるのですよ。

自分の着物を洗って（主の戒めを行い）、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。(黙示録 22:14)

犬ども、(黙示録 22:15) 聖書では、“犬”は常に“律法主義者”を表します。

パウロは、クリスチャンの兄弟や異邦人の周りをウロウロして、割礼を強要する者たちを“犬”と呼びました。(ピリピ 3:2)

実際、それは大変な問題だったのです。今でもまだいますね。

「クリスチャンなら霊的になれ！」「クリスチャンになるには、痛みが伴うんだ！」と（割礼用の）ナイフを研ぎながら言う人たち。

そして、人々に規則や束縛を与えて、霊的であることと惨めさとを結び付ける。

それを使徒パウロは「彼らは犬だ！」(ピリピ 3:2)

主が“犬ども”と呼ぶのは、律法主義者、ユダヤ主義者。

彼らは人々に重荷を加え、人々が救いの賜物をただ受け取り、主が成し遂げられた素晴らしいわざを楽しむ、というシンプルさを奪ってしまいます。

犬ども、魔術を行う者、(黙示録 22:15)

“魔術”という言葉は、文字通りには“薬をのむ者”“Pharmakeus”

不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行う者はみな、外に出される。(黙示録 22:15)

「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」(黙示録 22:16)

興味深いのは、「わたしはダビデの根、また子孫。」

「わたしはダビデの根」とは、「ダビデはわたしから出た。しかし、わたしはダビデから出た子孫でもある。」

そんなことがあり得るのか？

キリスト・イエスは、ベツレヘムで生まれた赤ちゃんとしてはダビデの子孫です。

しかし主は、ベツレヘムで生まれる前は、永遠の中にいるキリストとして、ダビデが生まれるよりもはるか前から存在しています。

だから、主はダビデの根であり、且つダビデの子孫なのです。

主はキリスト。

根として既に存在し、私たちの罪の贖いで死ぬために、赤ちゃんとしてベツレヘムに生まれたイエシュア。イエス。

わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。(黙示録 22:16)

御霊も花嫁も言う。「来てください。」(黙示録 22:17)

ここの「来てください。」は、主に向かっての「主よ。来て下さい。(Come, Lord)」ではありません。聖霊と花嫁、聖霊の働きと花嫁の声が、迷い出て死にかけている、真っ暗で永遠に呪われた“この世”に向かって「来て下さい!(\*Come!)」と言っているのです。

それが聖霊の働きであり、私たちがこの地で共にさせてもらっていること。

聖霊は人々をイエス・キリストに関する知識に導き、受け入れるように熱心に勧めます。そして、私たちは主の花嫁であることを認識しており、聖霊と一緒に働けるのです。

御霊も花嫁も言う。「来てください。」

これを聞く者は、「来てください」と言いなさい。(黙示録 22:17)

「来て下さい」「来て下さい」「来て下さい」

渇く者は来なさい。

いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。(黙示録 22:17)

「来なさい」「来なさい」「来なさい」

聖霊が「来て下さい」と言い、花嫁も「来て下さい」と言います。

これを読む者は、誰もが「来て下さい」と言うのです。「来て下さい」「来て下さい」

「さあ、来たれ。論じ合おう」と主は仰せられる。

「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。

たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」(イザヤ書 1:18)

ああ。渇いている者はみな、水を求めて出て来い。

金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。(イザヤ書 55:1)

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。」(マルコ 10:14)

その日、イエスは言いました。

「渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」(ヨハネ 7:37)

「来なさい！」「来なさい！」なのです。

「行け！」でもなく「生まれ！」でもなくて、いつも「来なさい！」

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。

わたしがあなたがたを休ませてあげます。(マタイ 11:28)

「来なさい」「来なさい」「来なさい」わたしのところに来なさい。

主の招待状はいつもそうです。

主が初めて公のミニストリーを始めた時、バプテスマのヨハネの弟子が二人、主に従い始めた頃、主と行動を共にし始めた頃、

イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て、言われた。

「あなたがたは何を求めているのですか。」

彼らは言った。

「ラビ（訳して言えば、先生）。今どこにお泊りですか。」(ヨハネ 1:38)

イエスは彼らに言われた。

「来なさい。そうすればわかります。」(ヨハネ 1:39)

「来て、見なさい。」それで彼らはついて行き、最後まで主から離れませんでした。

それまでに5人の男と結婚し不品行な生活をしていた女は、イエスに触れられてサマリヤの町に戻って

「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。」(ヨハネ 4:29)

ナタナエルはナザレのイエスのことを聞いた時、「それはあり得ない。預言ではメシアはベツレヘムから出ると言われているんだ。ユダからだ！北のナザレからじゃない。」と思い、ナタナエルは彼に言った。「ナザレから何の良いものが出るだろう。」(ヨハネ 1:46) ナタナエルは、イエスがベツレヘムで生まれたということを知らなかったのです。

ピリポは言った。「来て、そして、見なさい。」(ヨハネ 1:46)

「来て、見て下さい。」

明日、職場で一緒に働いている人に言いませんか？「来て、見て下さい。」

〈そのウワサは聞いているよ。おかしなことを色々やってるよね？〉

「来て、見て下さい。」「来て下さい。」

是非、誰かに「来て、見て下さい。」と言って招待して下さい。

そして、主が彼らにどのように働かれるかを、来て、見て下さい。

あなたはきっと喜びに満たされるでしょう。

「来て下さい」「来て下さい」「来て下さい」「来て下さい」

聖霊も花嫁も「来て下さい」と言い、それを聞いた人たちはその招待に参加する。来る！

何と素晴らしい!!

私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。(黙示録 22:18)

もし聖書に、特に黙示録に何かをつけ加えたいと思ったら、もう1回6章から19章を読んで下さい。そして、自分がそこに加えられたいか、よく考えてください。



また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。(黙示録 22:19)

これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」

アーメン。主イエスよ、来てください。(黙示録 22:20) アーメン。

旧約聖書の最後、マラキ書は、このみことばで終わっています。

「わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」(マラキ書 4:6)

今時の教会にもこのように感じさせる所がありますね。旧約聖書のようなことをして。

「これは呪いだ!」「神が怒っているんだ!」「もっと頑張れ!」「何をやってるんだ!!!」

それは旧約聖書、律法です。律法は殺し、屠ります。

律法は教師で、私たちが罪人であることを明白にします。

しかし、新約聖書は、このように終わっています。

主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。(黙示録 22:21)

“恵み”。

受ける資格がなく、ふさわしくない者に、一方的に与えられる好意。

“恵み”が、最後のみことばなのです。

ハレルヤ!! アーメン!! ハレルヤ!!

主よ。早く来て下さい。

天のお父様。あなたのみことばを感謝します。それは私の足のともしび、道の光です。

主よ。あの日、「あなた以外、他にどこへ行けましょう」と言った人たちは正しいです。

あなただけが、永遠のいのちのみことばを持っておられます。

私たちは、あなたのみことばである聖書を学ぶ中で、それが真実であると分かりました。

あなたが語られるみことばはいのちの御霊で、力があり、真実で、色あせず、影響力があり、永遠です。

今、父よ。どうか、聖書を封印させないで下さい。

私たちを聖書の深みに行かせて下さい。

みことばを聞くだけでなく、行う者として下さい。

イエス・キリストの恵みの中で私たちを育てて下さい。

真実である福音を他の人に伝えることができますように。

父よ。みことばに感謝します。

人として来られたみことば、私たちの中に住んでおられるあなたの御子を感謝します。

主よ。救いを感謝します。

実践的なみことばに感謝します。

私たちの目的地である天国を感謝します。

あなたを愛し、祝福し、ほめたたえ、感謝します。

主よ。ここに集っている神の家族が、イエス・キリストの恵みと知識の中で成長しますように。

そして天の父よ。あなたの御子を待ち望む間も、イエス・キリストの恵みが私たち全員と共にあります

ように。

主よ。早く来て下さい。

その時まで、私たちが恵みを放つ者となりますように。

恵みを伝える者でありますように。

全てはあなたの栄光のために。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。ハレルヤ。アーメン。

愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。

聖霊によって祈りなさい。

神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

ある人々が疑いを抱くなら、その人たちをあわれみなさい。

ほかの人たちは、火の中からつかみ出して救いなさい。

また、ほかの人たちは、肉によって汚された下着さえ忌み嫌い、神を恐れつつあわれみなさい。

あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、

私たちの救い主である唯一の神に、私たちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、支配、権威が、永遠の昔も今も、世々限りなくありますように。アーメン。

(ユダ 20-25 新改訳 2017)